

ZENFAUREN

全国国立大学附属学校連盟・(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会

附属だより
第115号

全附連ホームページ
http://www.zenfauren.org/



全附P連最新情報
https://www.facebook.com/
全国国立大学附属学校PTA連合会
-535185576863562/



~子どもたちとこの国の未来のために~

第115号 LINEUP

令和2年度
新体制
委員会
活動方針

2~3面

緊急特集

コロナ禍の各学校園の取り組み
コロナウイルスの影響を受ける中、
各学校園はどう動いたか。

4~7面

全附P連表彰
附属学校園の
活動をご紹介

8面

連盟からの
情報発信

9面

作文・絵作文
コンクール

10~11面

第68回一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会総会

6月6日(土) インターネット開催

第68回一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会総会が、令和2年6月6日に会長所在地からのテレビ会議で開催されました。その模様を全国の会員の皆様にお伝えいたします。

全附P連 令和2年度総会開催

コロナウイルスによる世界的パンデミックという大きな社会混乱が生じ、附属学校でも感染拡大防止のため、休校や入学式と始業式の延期など異例の事態になりました。本会総会も同様に感染拡大防止の観点から、多くの人が一堂に会することを避けるため、地区会長を中心として、即時性を持った双方向での意見交換が可能なテレビ会議を活用して開催になりました。神余智夫会長から、本会は令和2年4月1日に東京法務局港出張所にて登記を行い一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会となったこと、さらに公共的な活動を行っていくという挨拶がありました。



附属学校への期待

国立大学附属学校は、これまでも①実験的・先進的な学校教育の実施、②教育実習の実施、③大学における教育研究への協力といった重要な使命・役割を果たしてきており、附属学校関係者・保護者・卒業生等がそれぞれの立場で尽力されていることに敬意を表します。

さて、令和2年になり、日本、そして世界が新型コロナウイルス感染症による挑戦に揺れていても国公立学校を問わぬ、教育現場における感染防止の取り組み、学びの学習環境の確保を最優先にしていくこと、これが求められています。しかし、この不安の学習環境の確保を最優先にしていくこと、これが求められています。しかし、この不安の学習環境の確保を最優先にしていくこと、これが求められています。



文部科学省
総合教育政策局
教育人材政策課
教員養成企画室長
齋藤 潔様

コロナ禍でも全力で活動続ける 附属学校園に協力を



一般社団法人
全国国立大学附属学校
PTA連合会
会長 神余 智夫
(香川大学教育学部附属
坂出幼小中学校PTA)

感謝の意を表します。また、学校現場において、子どもたちの教育に空白を作らないよう、ご尽力されている教職員の皆様にも感謝の意を表します。学校休業中、リモート授業のモデル発信や、地域と連携してリモート授業の支援を実施した附属学校も多くありました。これは、3年前の附属学校の改革に関する有識者会議の報告書の方向性とも符合する活動で、附属学校の改革が実際に進んでいることを示していると思います。このような活動の周知を、この附属だよりなどを活用しながら実践していきたいと思っております。



全国国立大学
附属学校連盟
理事長 木村 勝彦

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の問題で、社会全体の機能が長期に亘って大きく滞り、全附連も実質的な活動が殆どできなくなりました。私たち自身、所属学校、機関等で、この間の対応に忙殺されてきました。しかし、今、新たな価値観とともにこの事態を乗り越える時期が到来しつつあります。この事態を乗り越える時期が到来しつつあります。この事態を乗り越える時期が到来しつつあります。

令和2年度 (一社) 全国国立大学附属学校PTA連合会 役員・理事・監事・顧問・評議員構成

Table of board members including 直前会長 (呉本 啓郎), 会長 (神余 智夫), 監事 (安村 俊己, 板倉 雄一郎), 専務理事 (桑名 良尚), 事務局 (田中 一晃), and various committees like 特別委員会・実行委員会 and 事業支援特別委員会.

Table of regional representatives (評議員) for 北海道地区, 東北地区, 関東地区, 北信越地区, 東海地区, 近畿地区, 中国地区, 四国地区, and 九州地区.

Table of school alliance representatives (学校連盟選出) including 理事 (大木 圭, 小泉 薫, 吉田 隆) and 評議員 (玉村 公二彦, 堀内 かおる, 福地 龍郎, 丸山 研一, 菊地 美千世).

令和2年度 委員会活動

総務委員会

- 1. 総務全般
2. 法人化による事務作業 (商標登録名義変更等)
3. 諸会議の設営
4. 作文絵作文コンクールの実施
5. 地区間交流事業の実施
6. いじめ対策活動等助成金事業の実施
7. いじめ防止プログラム関係業務
8. 子どもの貧困に関する調査研究と対策の検討 (東京学芸大学との連携)
9. 表彰の企画・運営
10. 文部科学省をはじめとする関係省庁、関係団体との連携
11. 全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会との連携
12. 運営企画会議への参画
13. PTA研修会第11回全国大会への参画
14. 広報活動 (ホームページ運営含む) への協力
15. その他

財務委員会

- 1. 会計業務全般
2. 法人化に向けた準備 (会則、規則の見直し)
3. カンガルー保険関係業務
4. 財政教育プログラム関係業務 (財務省との連携)
5. 金融経済教育プログラム関係業務 (金融庁との連携)
6. クラウドファンディング等の事業支援
7. 附属学校の産学連携に関する調査研究
8. 運営企画会議への参画
9. PTA研修会第11回全国大会への参画
10. 広報活動 (ホームページ運営含む) への協力
11. その他

広報委員会

- 1. 広報活動全般 (情報収集・情報発信・取材対応)
2. 附属だよりの企画・取材・編集・発行
3. ホームページの企画・運営
4. 絵画コンクールの実施 (主管 全附P連)
5. 特別広報活動 (附属学校に関する戦略的広報活動、SNS等) の企画・運営
6. 運営企画会議への参画
7. PTA研修会第11回全国大会への参画
8. その他

研修委員会

- 1. PTA研修会第11回全国大会の企画・運営
2. 全国大会実行委員会の運営
3. PTA研修会第12回全国大会の企画
4. 国立大学附属学校全国同窓会との連携、大同窓会運営協力
5. 附属学校の産学連携に関する調査研究
6. 附属学校の存在意義を高める教育プログラムの開発
7. 運営企画会議への参画
8. 広報活動 (ホームページ運営含む) への協力
9. その他

特別支援委員会

- 1. カンガルーシップ活動助成金事業の企画・実施
2. 特別支援学校・学級に関する調査研究
3. 就労支援に関する調査研究
4. あいサポート運動関係業務
5. 関係団体・特別会員特別支援学校との連携
6. 運営企画会議への参画
7. PTA研修会第11回全国大会への参画
8. 広報活動 (ホームページ運営含む) への協力
9. その他

〈特別委員会・実行委員会〉

全国大会実行委員会

- 1. PTA研修会第11回全国大会の連絡・調整・実施
2. PTA研修会第12回全国大会の企画・連絡・調整
3. その他

事業支援特別委員会

- 1. 附属学校改革に関する情報収集・情報発信・諸対応
2. あいサポート運動の特別支援委員会支援
3. 全国大会の研修委員会支援
4. 国立大学附属学校全国同窓会の研修委員会支援
5. 運営企画会議の企画・運営
6. 必要とされる活動についての検討と割り振り
7. 活動についての検証
8. その他

令和2年度 活動基本方針

(一社) 全国国立大学附属学校PTA連合会

一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会(以下、連合会)は、全国56の国立大学法人に設置された幼稚園49園・小学校70校・中学校71校・高等学校15校・義務教育学校2校・中等教育学校4校・特別支援学校45校、計256校(平成31年3月現在)の置かれていた現状と求められる使命を十分に理解した上で、その絆とスケールメリットを生かし、子どもたちの学習環境の充実と安心・安全の確保、さらには附属学校の発展、国立学校としてこの国の未来を見据えた日本の公教育の振興に寄与することを目的としてPTA活動の実践と研鑽を推進する。

また、全国国立大学附属学校連盟(以下、連盟)とともに、日本教育大学協会をはじめとする諸団体と連携しながら附属学校および附属学校を設置する国立大学法人をサポートし、附属学校の持つ独自性や創造性、社会的使命、存在意義、現状などを、それぞれの地域社会および全国的に発信することにより広く世の中の理解と支援が得られるよう積極的な活動を展開する。

1 共有、対話による理解
附属学校の果たすべき使命である日本の公教育を支える国の拠点校、地域のモデル校としての役割について、学校をサポートすべくPTAが参画し研究実践することで得た情報を会員相互で共有するとともに、連合会はその貢献度を各関係官庁や諸団体に広く発信していく。また、各学校PTAがそれぞれの学校で直面する課題を解決するための一助として設置者である国立大学法人とのさらなる連携と対話を提唱する。

2 附属学校PTA活動の活性化支援と各組織の相互連携
子どもの成長過程に応じた教育の在り方、学習環境の充実と安全の確保、附属学校を

取り巻く諸問題などへのPTAの関わり方を実践研究し、その成果や課題を共有、議論するための研修大会を開催し、連合会、連盟と各学校PTAとの絆をより強く保つ。また、全国9地区主催の実践活動協議会など各地区会活動の有機的に支援し連盟との協働による活動の活性化を図る。加えて全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会と情報を共有し連携する。

3 対内および対外への広報活動の強化

各学校PTAがしっかりと子どもたちとそれぞれの学校に寄り添い有意義な活動ができるよう、参考となるPTA活動の事例および情勢などを全国の附属学校および各学校PTAに発信し情報共有の強化を図る。また、附属学校がさらに広く世の中の理解と支援が得られるようマスメディアや関係諸機関に対し積極的な広報活動を展開する。さらにはICTを活用した情報交換、共有など、連合会が主体となつてその運営強化を図る。

4 「共に生きる」ことの推進

連合会では特別支援教育に対する理解と連携を進める諸活動の推進を掲げ、様々な取り組みを継続してきた。これからも校種を超えた絆を育て、多様な個性を持つ仲間との相互理解を育む活動を推進および発信する。また、自己を共に尊重する態度・能力の育成、自己有用感・自己肯定感の育成を目指した活動を推進しインクルーシブ社会および一億総活躍社会の実現の牽引に努める。

5 国の目指す教育改革の先駆者として

国の目指す教育改革の先駆者たる附属学校のPTAとして、連合会は学校の働き方改革に協力するとともに教員という職業の魅力度向上に貢献する。加えて土曜日や放課後

の有効活用ならびに外部人材や資源を擁護し子どもたちの新しい学びの環境を創造することを提唱する。また、子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないようその現状を調査研究および実践し、有効な対策と教育を通じて貧困が連鎖することなくすべての子どもたちが夢と希望を持って成長することのできる社会の実現を目指した活動を推進する。さらには学校の内外を問わず子どもたちの安心・安全を確保するため防犯・防災に関する教育や活動および有害なIT環境の問題から子どもたちを守る活動を推進する。

6 コロナウイルス感染防止対策を考慮した近々の活動について

令和2年はコロナウイルスによる世界的なパンデミックという大きな社会的混乱が生じた。3月から5月にかけては学校の休業など異例の事態となる中、附属学校やPTAも前例のない対応に苦慮している。しかし、一方で附属学校では長引く学校休業に際し、子どもたちの教育をどう支えていくかという地域課題にも取り組んでいるところがある。

連合会はこのような状況の中、附属学校や単位PTAの感染防止対策を尊重し、必要な情報の収集や発信などの活動を行う。有益な情報の提供にご協力いただきたい。連合会では、緊急事態宣言中は不要不急の移動は行わず、遠隔会議や事務局のテレワーク等を実施し、政府が求める移動制限の目標に協力する。緊急事態宣言解除後も状況に応じて活動する。例年行っている事業についても適宜判断する。

異例の状況下での活動になるため様々な課題も想定されるが、是非ともご理解を賜りたい。

会長 神余智夫

役員・委員長・監事・地区会長の活動方針

 桑名 良尚 専務理事(総務・財務・研修委員会担当) / 事業支援特別委員会副委員長 コロナの影響で世界中が不安の中、第2波3波と予断を許さない状況です。子どもたちの安心・安全のため、未来の笑顔のために汗をかく所存です。	 大倉 宏治 副会長(総務・財務・特別支援委員会担当) 今年度、副会長を拝命しました。担当は総務及び財務委員会です。時代の変化を見据えた新しい附属学園のあり方、各PTAのかたへの支援を検討します。	 呉本 啓郎 直前会長 前任会長としての職務経験を活かし、業務全般について会長の諮問に応じ、連合会の更なる発展のため全力でサポートさせていただきます。
 増田 梓 副会長(広報・特別支援委員会担当) 校種を超えた絆を育む活動を支援し、子どもたちの未来と保護者をサポートしてまいります。また関係省庁や関係団体との連携を図り情報を発信してまいります。	 大竹 昌士 事業支援特別委員長 各種勉強会及び各委員会の活動に対し、専門委員と共に様々な面からサポートすることで、今年度の活動がより充実したものになるよう支援してまいります。	 萩原 清明 副会長(広報・研修委員会担当) / 全国大会実行委員長 新型コロナウイルス対策に対応した、新たな取り組みや課題を考え、より効率的・効果的な事業活動を目指します。
 田口 智之 総務委員長 組織全体の動きを把握しながら、理事会や各事業が円滑に動くよう、組織運営の向上に努めていきます。また各助成金事業の周知に力を入れてまいります。	 西村 寧 財務委員長 財務・会計の管理業務を中心に、財政及び金融それぞれの教育プログラムの普及促進、そして附属学園のファンドレイジングの支援に努めてまいります。	 谷田部 秀男 研修委員長 / 全国大会副実行委員長 今年度の全国大会は、東京での集合型開催が難しい状況です。しかし違った形での全国大会を開催できるように企画立案中。10月3日を乞うご期待！
 齋藤 伸 特別支援委員長 特別支援学校保護者のひとりとして児童・生徒の「いきいきとした学校生活」「自分らしい将来」実現の為に明るく楽しいPTA活動を目指してまいります！	 安村 俊己 監事 法人化スタートの本年度を監事の立場から支え、子どもと保護者お一人一人が充実した学校生活を送ることの一助となるよう努めてまいります。	 山下 浩史 広報委員長 附属学園の取り組みや可能性、存在意義をひとりでも多くの方に伝えるため、広報委員会としていろんな可能性に挑戦していきたいと思ひます。
 服部 直毅 北海道地区会長 新型コロナ禍の中、なかなか集まる機会が持てず、もどかしい中の今期スタートとなりましたが、WEBも活用しながら、「今出来る事」をしっかりとやっていきたいと思ひます。一年間どうぞよろしくお願ひいたします。	 富田 光一 東北地区会長 コロナの影響で様々な制限下での活動となりますが、地区内の連携をより一層深め、より良い附属学園の実現を目指していきたいと思ひます。	 板倉 雄一郎 監事 新しい全附P連の事業の形態が問われる年になることと思ひます。税理士の専門的な知見を生かし、新しい法人の運営を支援してまいりたいと思ひます。
 久田 道人 北信越地区会長 大変な状況が続いておりますが、PTA活動を見直す良い機会と捉え、新たな時代に「共に在る」附属学園のあり方を問い直してまいりたいと考えております。	 石丸 泰雄 東海地区会長 国立大学附属学園の伝統を守りながら、これからの新しい時代を切り開いていく子供たちの未来のために、地域と連携し活動していきたいと思ひます。	 高地 たか子 関東地区会長 今、時代の転換点に立っています。変化に対応し、皆様と協力しながら、子どもたちの教育環境の充実に貢献していく所存です。
 高山 晃一 中国地区会長 こんな時だからこそ「できる人ができる時にできる事を」を胸に、子供たち、そして附属学校の明るい未来のために、小さな活動を積み重ねてまいります。	 田中 基道 四国地区会長 新型コロナ禍という大変な時代ですが、新たな発想のもとで多様なチャネルを利用できる環境づくりに貢献できればと考えています。	 寺畑 俊雄 近畿地区会長 大学と連携し現代的教育課題に取り組むこと。また新たに、日本における歴史的出来事を風化させず、保護者と共に子どもたちと考える活動を目指します。
 田島 寿太郎 九州地区会長 九州地区の今年度スローガン「不易流行」を合言葉に、地区内の活動の充実に努めていきます。宜しくお願ひいたします。		

北海道教育大学附属特別支援学校

このたびの新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本校も長い臨時休業期間となりました。休み中の保護者とのやりとりの中で、子どもたちの中には家庭で一人で過ごすことが難しく、期間が長くなればなるほど対応も難しくなってきたこと、保護者の負担も大きくなってきているのではないかと心配が職員間で話題になっていました。そこで、職員全員で子どもたち及び保護者として地域に向けて、元気を届けたい、と取組を開始しました。まずは学習の保障の目的で「学習動画配信」を行いました。子どもたちに学校の学習を思い出し、家庭でも取り組んでもらおうと音楽、体育、図画工作（美術）などの学習内容を教職員出演による動画を制作し、HPを通じて配信しました。自主活動の内容として制作した手洗いのメッセージも添えて配信しました。「家でできる学習」そして学校が始まったら友達や先生と一緒にできる内容」として複数の動画が配信されました。

北海道教育大学附属旭川幼稚園

本園は、4月8日に令和2年度の保育をスタートしましたが、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大と国の緊急事態宣言を受け、4月20日から2回目の臨時休園措置をとることとなりました。結果的に5月末日までの長い休業期間となりましたが、こんな時だからこそ「幼稚園に何ができるのか」を教職員全員で模索し、休園でもつながりを感じてを大切に、さまざまな取組を実践したもので紹介いたします。



①園児向けの取組 YouTubeを利用したメッセージの配信
休園中の4月、5月に誕生日を迎えた園児たちへのプレゼントと家庭で過ごすことが多くなった子供たちのメッセージの意味も込めて、職員全員で「やまのおんがく」の楽器演奏を行いました。撮影したものはYouTubeに限定公開し、チャンネルURLをメールで各家庭に配信しました。視聴した保護者からは「楽しい演奏でした」「子供と一緒に歌ってました」などの感想をいただきました。他にも分散登園開始前に担任教諭によるショートメッセージ配信を行いました。週に一度の電話連絡だけでなく園や先生方の様子を映像で届けることで園児に幼稚園とのつながりを感じてもらえたのではないかと思います。

②地域への取組 保護者と共により育てよう
外出自粛を要請される中、市内の公共施設

学習動画の配信で地域を元気に!

作詞作曲・演奏及び映像の編集を行いました。曲は子どもたちに向けたメッセージが歌詞になっているものの、感染症の収束を心待ちにする地域の方々への応援ソングとしても聴いていただけた内容になっていること、「子どもたちの声が響く街」「気な街」という思いを込めた歌であることから、道内の新聞3紙及び地元ケーブルテレビを通して紹介していただきました。また、北海道新聞函館支社の報道部長が出演したラジオ（FMいるか）で紹介していただくなど地域の方々に聴いていただく機会を数多く得ました。さらに、ラジオを聴いた方の紹介で、北京市在住のラジオパーソナリティから電話による取材を受け、FM（SBC）でも紹介していただきました。休業期間が長くなることで、子どもたちは生活リズムが狂い健康を損なうことにもつながります。そのような中で「直接会えない先生の姿を動画等で見るだけでも安心感につながる」という声を保護者からいただきました。まだまだ感染症予防の対策は続いており、日常が戻ったとは言えませんが、通常登校が再開された本校では、現在「学校が始まったことを地域の皆さんに伝えながら元気を届けよう」と今度は子どもたちと一緒に発信を目指しているところです。（副校長 太田千佳子）



ケーブルテレビに出演してオリジナルソングを紹介

鳴門教育大学附属特別支援学校

校内での児童生徒に対する取り組み 全国一斉臨時休校後、週に1回程度担任から電話連絡を行い、健康や生活の様子を確認し、保護者や児童生徒の気持ちに共感し、傾聴するよう努めました。教職員間では感染防止のための健康チェックや学習内容・活動、施設等について検討を重ねました。また、休校中に児童生徒の居場所確保が困難な場合には、学校で児童生徒の受入ができることを保護者に周知し、受入体制を整えました。

大学との連携 換気や感染リスクを伴う保健室やトイレ等の課題について、大施設課から、全教室の換気システム、換気方法に対する説明・助言、さらに施設の改良にも協力を得ることができました。また、教室やスクールの消毒、給食や歯磨き等の感染防止対策に関する本校校医・心身健康センター長からの指導と、学校薬剤師からの換気や消毒方法の指導を基に、対策上の留意点が確認できました。大学の広報係には、学校ホームページの「学習支援ページ」新設に助力を得ました。大学から直接、迅速で的確な説明や指導・助言を得ることのできる附属学校の素晴らしいところを感じました。

地域への取り組み 本校は、地方新聞の折込コミュニケーション誌に月1回投稿しています。現在は、新型コロナウイルス感染症防止の取組を地域に発信しております。5月号と6月号の記事の一部を紹介いたします。

香川大学教育学部附属坂出小学校

本校では、臨時休業中の子どもたちの学習機会を確保するため、全校生を対象とした双方向遠隔授業を行いました。ICT等の通信環境が整ったという家庭は9割程度、学校から貸し出せる端末は約10台あるものの、通信環境がなければ使えません。多くの学校と同様、GIGAスクール構想に向けた準備はまだ計画段階であり、子どものために学校が用意できる機器がほとんどない状態で、4月13日から臨時休業となりました。本校では遠隔授業の実施に向けて、家庭にある機器と通信環境に頼ることしました。そして、残り1割の子どもには授業を録画し、DVDを配付し、質問を電話で受け付けるなど、できるかぎりの工夫をして対応することにしました。一方、教員も遠隔授業の経験はゼロであり、手探りの状態から始め、互いに学び合いながら準備を進めました。そして、4月末には遠隔で休みの5月7日から5月末まで、大きなトラブルなく全校生に23時間の遠隔授業を行うことができました。



遠隔授業のシステムは、香川大学が包括契約している「Skype for business」(通称Kadype)を

熊本大学教育学部附属中学校

4月、熊本では約1ヶ月の休校が決定し、本校もオンライン授業を行うことを決断しました。しかし、目指す授業は、本校総額の響き合いの精神」を基調とした双方向のオンライン授業である。しかし、この時点で、AOE会議を経験したことがある職員はわずか数名、他の職員は全くの素という状態であった。さらに、ハード面は全校生徒540名に対して生徒用のPCが80台、モバイルパソコン40台、教職員25名に対してiPad12台という状況であった。しかし、何もなければ、子どもたちの学びは止まらなかつた。このピンチは必ずチャンスに代わると信じ、オンライン授業に向けた準備をはじめ、さっそく、各家庭の実態を調査し、端末がない家庭に入社PC等を貸し出した。大学にはAOEのライセンス購入とオンライン授業の教員にオンライン授業の研修を依頼。オンライン授業に関するルール作りなど全職員で準備の結果、4月20日にはZoomによるオンライン授業をスタートすることができた。最初の1週間は1日に2〜3時間の授業を行い、4月30日からは1日に5時間の授業を行うようになった。その結果、行事の削減もあり9教科の授業時数は例年並の時数を5月末には確保できた。(5月末までは完全にオンライン授業を実施) さら



ピンチをチャンスに! 双方向のオンライン授業への挑戦

今年度10月9日(金)には、各教科、文部科学省の教科調査官等を引きオンラインによる研究発表会を実施する。オンラインでの授業研究の可能性と新学習指導要領で目指す教育について提案する予定である。詳しくは本校ホームページをご覧ください。



各家庭でのオンラインでの体育授業の様子

四校園と大学との連携による対応

4月1日、令和2年度が始まりました。2日には、学校再開に向けて、教職員全員で非接触型の体温測定とスクールの消毒等の感染防止研修を行いました。

◆新学習指導要領では、これからの予測困難な時代にあつては、学校教育には、子供たちに様々な変化に対応する力を育成することが求められていると述べています。感染防止に立ち向かう現在の世界の状況は「正に予測困難な時代」であり、子供たちが以前に私たちが教員に、変化に対応する力が強く求められています。教職員が協働し、感染防止のために学校が行えることをしっかりと考え創意工夫して実践していく所存です。また、住宅地にある本校の登校時の工夫について、6月号の記事で紹介しています。

◆感染防止対策として、自動車送迎の保護者の皆さんには、体温等を記入した健康チェックカードをドライバー方式で車内から教員に提示いただいています。登校時の混雑を避け安全でスムーズに確認できるよう、職員が発案で実施しております。新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」が求められています。学校でも様々な工夫を重ね感染防止対策や教育活動に取り組みでまいります。地域の皆様には、引き続き本校教育に、ご理解・ご支援をいただきますようお願いいたします。(校長 北岡八千代)

鳴教大附属特別支援学校の取組

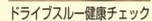
活用し、遠隔講義をしている香川大学の教員から技術的なアドバイスもいただきました。また、本校から多人数に通信ができるかのテストを、大学教員による100名以上の学生を対象とした遠隔講義で行っていただきました。これがスムーズにできたことで、通信回線の問題がなくなり、授業に円滑が立ちました。

実際の遠隔授業では、時間割に沿って同学年の担任2名が交替で2学級70名を対象に授業を進めました。子どもたちの笑顔が印象的で、友達や担任に会えることが大きな喜びだったようです。また、教員も子どもたちの様子把握できるとともに、授業を進められるという安心感がありました。保護者の方にも好評で、DVDの配付も含めて遠隔授業について「よかった」という感想がほとんどでした。

香川県内の小学校で双方向遠隔授業は初めてだったため、県教育センターや市町教育委員会、学校などから見学者が訪れました。ここでは授業の進め方や体制づくりについて説明し、本校の取り組みもまた4文書(本校HPに掲載も提供しました。新聞にも計4回掲載され、地元ケーブルテレビ局でも先進的な取り組みとして紹介されました。地域貢献という附属校の役割果たせるとともに、臨時休業中、保護者の方の協力を得ながら、教員が懸命に遠隔授業に取り組んだことが様々な場で認められ、ありがたいと感じました。



検温とスクールバス消毒の研修



ドライブスルー健康チェック

筑波大学附属高等学校

「桐陰祭、やります!」全国の学校における行事が続々と中止となる中、生徒達が文化祭の実施を高らかに宣言したが5月上旬の「桐陰祭(Online)」と称し、Web上での仮想空間を活用し、各種イベントやクラス・部活動の出し物等を企画しています。(10月18日開催予定。あれもできない、これもできないとして中止にするのは簡単なことですが、筑波大学附属高等学校では生徒も教員も、この状況下ならではのことができること、この状況下ならではの学びを追究しています。



筑波大学附属高校の取組み

4月上旬、休校が継続されることが明らかとなったところで、休校時の生徒の学習保障に関する学校としての「基本方針」を、教員会議にて決議しました。

生徒の教育を受ける権利を保障するために、すべての生徒がひとしく、質の高い学習・教育活動を行うことができるよう最大限の努力をする。

この瞬間ならではの学びを

習支援プログラムからの支援も活用
本校が重視する対話型の授業を実現するため、プレイクアウトルームや投票機能のあるZoomの活用を決定。全教員をホストとする教育プランと契約。Zoom等を活用した「ライブ配信型」、YouTube等を活用した「動画配信型」、Googleドキュメント等を活用した「テキストベース型」の授業をバランスよく配置する「オンライン授業」の枠組みを作った。教員対象のGoogle Classroom講習会、Zoom講習会を開催した。

複数回にわたる健康調査を実施したり、全生徒を対象に毎朝「朝体調」を行ったりすることによって、生徒の生活・健康状況を把握し、その改善につとめた。本校ホームページに特設ページを開設し、オンライン授業の実践を紹介した。動画14本、テキスト資料23部、5月30日、全国の先生方を対象とする「オンライン授業研究会」を開催し、約250名の参加があった。生徒会が「新入生歓迎サイト」を立ち上げ、新入生向けにすべての部活動、委員会を紹介する動画を掲載した。

詳しくはHPにまとめてありますので、ぜひご覧いただけます。

筑波大学附属高校ホームページ ↓ 休校期間中の本校の取り組み
http://www.high.s.u-tokyo.ac.jp/sis/wp/closure/
http://www.high.s.u-tokyo.ac.jp/sis/wp/closure/

大阪教育大学附属池田小学校

ICTを活用した感染防止策
新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐために、全国のほとんどの学校で臨時休業となった。感染拡大が収束の方向に向かい登校日が設けられると、登校時の検温が必要となった。検温カードなどを用いて確認する方法が一般的であるが、その方法は、学校の検温結果の記録の手間やある児童が体調が悪くなった時に、朝の検温結果を担任以外が把握できない課題等が考えられた。そこで、本校では大阪教育大学連合教職大学院の協力を得て、保護者が各家庭のスマートフォンやPCなどを用いて検温の結果をデータ送信できるアプリを開発した。このアプリを用いることで、検温カードの返却や記録の手間を省くことができるようになった。



ICTを活用した感染防止策

このアプリがより優れている点は、全教職員がパスワードを入力することで全児童の検温結果をタブレットやPCで確認できることである。そのため、ある児童が学校で体調が悪くなった場合には、全教職員がすぐにその児童の検温結果を確認することができ、また、検温結果のデータは自動的に保存されているため、さかのぼって検温結果を確認できるとともに、万が一感染者がいる場合には、接触したと考えられるすべての児童の検温結果が

新型コロナウイルスによる休業に伴う附属の取組

データも参照することができる。(アプリ試用URL http://www.kedae-oku.jp/~online/taion.pdf)
本校では、平時からパスワードで保護された児童・保護者専用のホームページを作成し、学校からの連絡や児童の学校での様子を伝えてきた。そのため、このホームページに動画を配信するにあたり、保護者や児童は特に抵抗なくこの方法に対応することができた。

新しい学年、新しい学級、新しい担任の先生。4月当初はこれらの不安を取り除き、教員と児童がつながることが紹介、外出自粛に伴う不安や新学期への不安を払しょくするための、アイスブレイキング的な動画などがある。4月中旬以降は、児童の規則正しい生活と学習保障に重点を置き、毎日、各学年1本以上の教科書を活用して家庭学習できるように学習補助動画を作成した。これらの動画と、ホームページに掲載した学習計画をもとに児童たちは学習を進められた。動画での授業に慣れた後半は、オンライン授業システム(ローノット)を用いて、課題の配布や提出も円滑に行えるようになり、教師と児童のつながりがより密になった。これらの活動の結果、学校再開後、児童は自然と学校生活に活動かすことができている。

全附P連 表彰

全国の附属学校PTAはそれぞれの地域で様々な活動を行っています。毎年全附P連ではそれらの中から特色あるもの、特に優秀なものを表彰させていただいております。ここではそんな活動をご紹介します。

会長賞

熊本大学教育学部附属特別支援学校

詳しくは附属だより114号に掲載しておりますので、そちらをご覧ください。

優秀賞

事業部門

大阪教育大学附属幼稚園

当園では、保護者によるクラブ活動が盛んです。昨年度は7つのクラブが発足し、様々な活動を行ってまいりました。その中から、2つの活動をご紹介します。

①お父さんクラブによる、給食づくり



園庭整備など、主に力仕事が必要となる場面での活躍が多かった、お父さんクラブ。当園は全国でも類を見ない、保護者による手作り給食が受け継がれていますが、新たな取り組みとして、お父さんだけの手作り給食を実現しました。給食を食べた子ども達からは笑顔があふれ、新しい時代を反映した食育の在り方を示す機会となりました。

②音楽クラブによる、歌の制作

一昨年の台風21号により、園庭の樹木が倒れるなど、大きな被害を受けました。寂しさを抱える中、折れたはずの桜の木から、時季外れの桜が一輪咲き、見る者に大きな励ましと勇気を与えてくれました。音楽クラブが、その思いを歌詞、作曲した「さくらパトーン」の歌を披露し、皆が力を合わせ、新たに前を向く一助となりました。

幼稚園を支えるクラブ活動

このように当園は「いつでも、だれでも、どなたでも」という精神をモットーにPTA活動が行われています。これからも子ども達に還元する活動が続いていくことを願っています。

優秀賞

組織改革部門

宇都宮大学共同 教育学部附属小学校

本校PTAでは、活動の中心を子供達の安全確保と学習支援とすることで、よりやりがいのある、かつ参加しやすい体制へと見直しを推進しています。

先ずは作業の効率化を進め、さらに全体量を削減する事で常置委員会の活動を縮小。これに代えて見直し委員会や放課後教室検討委員会など必要に応じ臨時委員会を公募により組織する事で負担感を軽減しました。PTA専用HPの開設や登下校確認メールサービス導入等も率先して活用しています。HPに至っては、導入後たったの一年で

優秀賞

組織改革部門

上越教育大学附属中学校

当校は、平成30年度入学生から、定員が15名減となり、令和2年度の全校生徒数は、3年前に比べて45名の減少となります。それに伴い、保護者数の減少によるPTA活動への負担とPTA会費の減少が課題でした。そこで、平成30年度末に、これらの課題解決のため、生徒一人1台のタブレット端末保有というICT環境をPTAでも活用してきた成果を整理分析し、次のように専門委員会を改編しました。

優秀賞

オリンピック・パラリンピック部門

筑波大学附属大塚特別支援学校

昨年11月の放課後、2週にわたり体育館で卓球活動を行いました。きっかけは、「卓球をやってみようけど、一人で習いに行くのはハードルが高い」という生徒や保護者の声でした。全附連の助成金を活用して、プロ指導者(るのスポーツ)のレッスンを受けることが実現しました。

卓球は始音が初心者。ラケットの握り方から教わりました。約1時間のレッスンで、全員が球を打ち返すことが出来、ラリーが続く様子も見られました。成功体験を積んだ生徒たちは皆よい表情で、「またやりたい!」と話してくれました。

「卓球にチャレンジ!」 ～つながる、ひろがる～

活動はさらにつながりました。年明けには「るのスポーツ」(あきるの市)へ有志で遠征。全国大会を目指すジュニアたちと共に汗を流しました。年齢や性別、障がいの有無などに関係なくみんなで楽しむことが出来ました。今後も交流を続け、「ユニファイド卓球」(健全者と障がい者が組むダブルス等)の実現を、と夢は膨らんでいます。



保護者による「未来を夢見る授業」

毎年オーブンスクールの時に実施しており、当日は大学の専門的な講義も受けられる。中学校と大学と保護者が一体となって授業を行うことで、子どもの健やかな成長の一助になっていると思う。今後、今後も継続して実施していきたい。



ICTで組織改革

・年4回発行するPTA広報のうち、2回をこれまでどおりの印刷物、2回をデジタル版として配信しました。

・教養委員会を「教養ICT委員会」とし、年2回開催していた講演会等の行事のうち、1回以上をICTにて特化した活動にしました。

・保健体育委員会と生活委員会を統合して、保健生活委員会とし、子供達の安全に関する内容の活動に整理しました。

以上のように、当校の特色を生かしたPTAの組織を改編したことにより、効率化と活性化が図られ、経費の削減につながることができました。



時代に合ったPTAを目指して

一日3万件をこえるほどのアクセスがあり大変注目されています。この他、組織改編により地域貢献も容易となり、私の前任の長澤氏は市P連の副会長を任されているほどです。

PTAは学校行事を手伝うための組織ではありません。我々の役割は、主役である子供達を舞台裏からいかにかに支え輝かせるか、ただそれだけです。そして最優先に取り組むべき課題は、何よりも大切な我が子が通う学校を、より安全でより楽しい場所にする事です。

一人の親として保護者として、何をすべきか、何をしなければならないのか、もう一度見直す時期にきています。PTAのあるべき姿を全員で考え、時代・地域・ニーズに合った組織へ変えていくことは必須なのです。

(令和元年度PTA会長 釜井秀文)



キャリア教育 文部科学大臣 表彰

香川大学教育学部
附属坂出中学校
松韻会会長 宮本昌尚

弘前大学教育学部附属中学校 財政教育プログラム・車座ふるさとトーク レポート

令和元年12月13日、青森県の弘前大学教育学部に於いて「財政教育プログラム公開授業」ならびに「車座ふるさとトーク」が開催されました。

中学3年の生徒160名を対象に、財務省東北財務局の阿保達巳氏を講師としてお招きし、財政とは何か、国の予算、社会保障などについて学び、最後に自分たちが財務大臣になって国家予算を作るグループワークを行いました。歳入を増やし、歳出を減らすために、どのような工夫をしなければならぬのか、今後どの部分の保証を厚くしていくべきかなど、中学生ならではの柔軟な発想でグループごとに個性のあるアイデアがたくさん生まれていったのがとても印象的でした。

その後、このプログラムを視察に来ていた内閣府副大臣の宮下一郎議員と、学校の先生方、PTA保護者、生徒が輪になり「車座ふるさとトーク」が開催されました。

冒頭、宮下副大臣からは、現在日本では社会全体で支え合うために様々な政策を検討しており、これからの税金のことを考えたときに、みなさんから色々な意見を頂戴したい、というご挨拶をいただきました。金融知識を学校で教えるのは大切な事だと思ふ、国だけではなく、家庭や個人レベルまで落とし込んで金融教育をしてもらいたい、というメッセージもいただきました。

日本財政を通じてこの国の未来を考える素晴らしい機会になったとともに、このプログラムをさらに全国の附属学校に広めていきたいと考える実りの多い1日となりました。

(総務委員会 田口智之)

寄稿 全国国立大学附属学校連盟から情報発信

全国国立大学附属学校連盟の令和元年度広報委員会のご協力で、3校より附属学校園の改革についてご寄稿をいただきました。



宇都宮大学共同
教育学部附属小学校
令和元年度副校長
平塚 昭仁

本校では、はじめに現状把握として①超過勤務時間の把握②業務量の見える化③目標設定を行いました。業務量の見える化は、業務一覧表を作成し、年間の業務時間、時間がかかる仕事、業務量の割合等を数値で表しました。

現状を把握したところで、学校改革委員会を立ち上げ、教職員から意見を集めながら業務を見つめ直してきました。ただやみくもに改善・削減を進めるのではなく、本校の使命である研究にかける時間の確保、子どもたちと向き合う時間を作り出すことを目的としました。改善の具体としては、校務支援ソフト・グループウェアを導入したことで、事務にかかる時間が大きく短縮されました。また、

金沢大学人間社会学域学校
教育学部附属高等学校
令和元年度校長 山本 吉次

本校は、平成26年度より5年間、文部科学省スーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定された。この間、「地域課題研究」「異文化研究」「グローバル提案」「グローバル・キャリアパス」という地域・二国間・グローバル・自己、と繋がる課題研究の一貫したカリキュラムを構築してきた。それと同時に、本校は三つの意味で「開かれた学校」となった。一つは、本校の教育活動に積極的に外部資源を導入するようになったことである。交流協定を結んだ台湾師範大学附属高級中学校とは双方方向に生徒が交流するようになった。「地域課題研究」発表では、日本政策金融公庫や北陸財務局、金沢青年会議所などの方々の外部評価を得るようになった。金沢大学留学生との交流授

「魅力ある学校運営を目指して」 ～SGHからWWLへ～

業もしばしば行っている。二つ目は、生徒が校外の自主的活動に、積極的に挑戦するようになったことである。平成30年度には長期・短期の海外留学・研修参加者が24名にも上った。模擬国連大会やエコノミクス甲子園では全国出場の常連になった。

三つ目は、地域の公立高校と連携するようになったことである。平成29年度より公立高校二校と課題研究発表会を催し、平成30年度からは北信越SGHフォーラムを開催している。

平成31年度からは、金沢大学を幹事校として、WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業拠点校に採択された。国立附属の本校が拠点校になり北

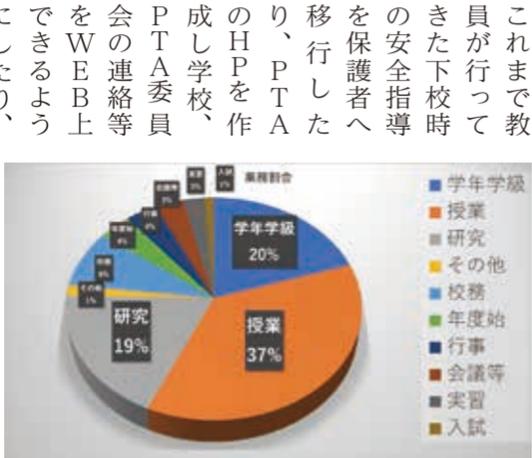


北信越SGHフォーラム



フリー・アドレス大職員室

大学・附属学校・PTAがつながる 業務改善



これまで教員が行ってきた下校時の安全指導を保護者へ移行したり、PTAのHPを作成し学校、PTA委員会の連絡等をWEB上で行ったり、保護者からの提案で改善したことも多くありました。その他、学校全体として小さくさまざまな改善等を行った結果、超過勤務時間が短縮されただけでなく、児童指導の問題が大幅に減るとともに、全国学力調査の数値も上がってきました。教員の時間的余裕ができたため、地域の研

究会、校内研究会等への講師派遣率が前年比25%増となりました。それに伴って公開研究発表会の参加者数も増えてきました。

今後は、大学と連携をしながら附属学校園内の更なる業務改善を進め、その成果を地域へ広めることを目標に取り組んでいく予定です。

新潟大学教育学部附属
長岡小学校
令和元年度校長
松井 謙太

長岡小学校
校は今年創立二二〇周年を迎える。四〇年前の新潟市への学部統合後は、附属長岡校園のみが、ここ中越・長岡市に設置されている。



幼稚園、中学校を含めた私たち長岡校園は、有識者会議報告書以降、校園のミッションステートメントの明確化に取り組んだ。それは、この地域における附属の存在意義は何か、そして教員研修に対する地域貢献はどうあるべきかを考へることだった。以下取組の一部を述べる。

まず、研究会の参加者数の増加に加え、参加が個人々の教育実践にどれだけ活かしているか参加者への追跡アンケートから把握した。(研究会半年後に二度実施)教材教具等の工夫、問題提示、協働学習、問いのモタせ方等の上位の回答内容をニーズとして捉え今後の内容に反映させる。

第二に、中越管内十市の教育委員会に出向き、「この地域に附属学校があることの効果」や「今後の附属学校との連携の可能性」について各教育長へ直接ヒアリングを行った。(年度初めに二度実施)

附属の効果として多くの回答を得たのは、「公立学校と附属学校の人事交流により、各地域の中核教員を養成するハブ機能」「全ての教科について授業公開を行う希少性」「様々な研修会の講師・指導者」「児童がいる教育センターとしての機能」などであった。

また、現状に加え、長岡校園の特徴を活かすことで地域に貢献してほしいと多くの声を頂いた。具体的には、「幼小接続等のコンサルタント」「教職大学院、免許更新等、現職教員が学ぶ場としての大学の

授業×学級づくり
先生のための教師力アップセミナー

実行 9:30～10:30
10:40～11:25
12:00～12:50
13:00～14:30

2019年7/6
新潟大学教育学部
附属長岡小学校

中越地域のサテライト化」 「総合大学の力を活かした教育を通じた地域課題の解決」「遠隔地でもストレスなく学べるテレビ会議等のシステム開発」等であり、今後の指針づくりの参考になった。

さらに、近年、教室で苦戦している若手教員が増加傾向にあることから、研究会よりも「難度」を下げて、学級づくりや授業づくりを具体的に学べる場を附属学校から提供してほしいとの声を複数の教育委員会から得た。そこで、令和元年度は若手の教師力向上セミナーを6講座実施し好評を得た。(この他、研究会以外に、公開授業十四回、各種講師二八回)

こうした取組みを可能にするには、やはりマンパワーが必要である。教員研修を通して地域貢献、あるいは大学の教員養成に附属からの関与性を高め、参画していくための教員を令和元年度より大学から加配していただいた。

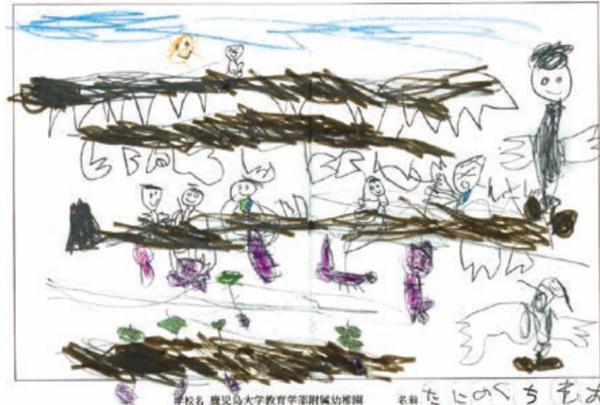


優秀賞 作文

とくしいおうちえん
神戸大学附属幼稚園の先生は、いつも優しくお話を聞いてくれます。先生は、お話を聞いてくれるので、私もよくお話が聞けるようになりました。先生は、お話を聞いてくれるので、私もよくお話が聞けるようになりました。

神戸大学附属幼稚園 年中 福田 優愛さん

優秀賞 絵作文



鹿児島大学教育学部附属幼稚園 年少 谷之口 礼央さん

たのしいおうちえん
幼稚園に入園して初めての思い出は、お友達と遊ぶことです。先生は、お話を聞いてくれるので、私もよくお話が聞けるようになりました。

会長賞

鹿児島大学教育学部附属中学校 3年 石川 澄伶さん

生活記録を通して多感な中学生の心に寄り添う先生。そして生活記録を書き続けることによって、自分に向き合い、次第に素直な思いを綴ることができるようになった作者。教育とは、まさしくこうした日々の積み重ねによるものです。

生活記録を通して多感な中学生の心に寄り添う先生。そして生活記録を書き続けることによって、自分に向き合い、次第に素直な思いを綴ることができるようになった作者。教育とは、まさしくこうした日々の積み重ねによるものです。

生活記録を通して多感な中学生の心に寄り添う先生。そして生活記録を書き続けることによって、自分に向き合い、次第に素直な思いを綴ることができるようになった作者。教育とは、まさしくこうした日々の積み重ねによるものです。

生活記録を通して多感な中学生の心に寄り添う先生。そして生活記録を書き続けることによって、自分に向き合い、次第に素直な思いを綴ることができるようになった作者。教育とは、まさしくこうした日々の積み重ねによるものです。

～くすのき先生からのひと言～

忙しい日々のなかであっても、生活記録を通して多感な中学生の心に寄り添う先生。そして生活記録を書き続けることによって、自分に向き合い、次第に素直な思いを綴ることができるようになった作者。教育とは、まさしくこうした日々の積み重ねによるものです。

全附P連
『作文・絵作文コンクール』
『先生へのメッセージ』
『先生との思い出』
入賞作品紹介
今回は入賞作11作品の中から3作品をご紹介します。

審査日 2020年2月7日
審査会場 鳴門教育大学附属中学校
審査員 児童文学作家
くすのき しげのり氏 (審査委員長)
全国国立大学附属学校PTA連合会正副会長・総務委員会

昨年に続き2回目の事業として「作文・絵作文コンクール」を本年も開催いたしました。子どもたちが日常の学校生活や家庭生活の中で得た体験や感動、感謝を、作文を書くことを通じて、人への感謝や基本的人権について理解を深めるとともに、SNSに頼りがちな昨今、文章表現によるコミュニケーションの魅力を知ってもらうことで、字を書く文化の振興を図り、心豊かな生活を身に付けることを目的としています。



審査会の様子

「教師の日」とは

現在、まだ日本ではあまり知られていませんが、毎年10月5日は「教師の日」として、1994年にユネスコ(国際連合教育科学文化機関)により制定され、学校、家庭、地域のそれぞれがお互いに尊敬・信頼し合えるような環境の構築を目的としています。

～くすのき先生からのひと言～

幼稚園での遊びの場面、友だちとのトラブルの場面、工作の場面。大好きな優しい先生から、いろいろなことを学んでいることがよくわかります。

～くすのき先生からのひと言～

初めての思い出も掘り。ともだちや先生といっしょに夢中になってたくさんのおいも掘ったのでしょ。みんなの楽しい歓声が聞こえてくるようです。

入賞作品

Table with columns for award type (会長賞, 優秀賞 絵作文, 優秀賞 作文), school name, and author name.

表示している学年は作品応募時のものです

審査を終えて

昨年度の「作文・絵作文コンクール」には、第一回にもかかわらず、全国の国立大学の各附属学校から、素晴らしい作品の応募がありました。第二回目の今回は、さらに多くの素晴らしい作品に出会うことができました。この「作文・絵作文コンクール」のテーマは、「先生へのメッセージ」や、「先生との思い出」です。

審査委員長



児童文学作家
くすのき しげのり氏

略歴
1961年生まれ、徳島県鳴門市在住。鳴門教育大学大学院修了。小学校教諭、鳴門市立図書館副館長を経てオフィスKUSUNOKIを設立。現在は作家として児童文学を中心とする創作活動と講演活動を続けている。

令和元年度 全附P連助成金事業報告

令和元年度に全国で実施された助成金事業を紹介します。またリスト中の活動についても、一部全附P連ホームページでも紹介しています。ぜひご覧下さい。

PTAいじめ予防研修会

「いじめ」について具体的にどう取り組むことが出来るかを話し合った。参加者にとって「いじめ」を他人事と考えず自分事として考える機会となり、いじめを防止する心が芽生える研修会となった。



この他、令和元年度は土曜放課後等活動助成金事業で18校園への助成を行いました。

カンガルーシップ活動助成金事業

校種を越えて、子ども・教師・保護者が連携をもち、障がいに対する「理解」を基盤とし「共生」を育む活動です。助成金には「理解プロジェクト活動助成金」、「共生プロジェクト活動助成金」、「就労支援のための活動助成金」、発達障害・学習障害への理解を推進する「ネイバーサポート活動助成金」を実施しております。

理解プロジェクト

学校名	活動名
愛知教育大学附属特別支援学校	ふよう美術展
金沢大学附属特別支援学校	地域住民と協働活動を通して共生の地域づくりに貢献しよう。
信州大学教育学部附属特別支援学校	ふとく高等部陶芸教室
福井大学教育学部附属特別支援学校	児童生徒造形展2019
宮城教育大学附属特別支援学校	ぼくたちわたしたちが見ている世界の写真展・写真とアートのワークショップ
茨城大学教育学部附属特別支援学校	夏祭りをしよう（ふとく夏祭り）

ネイバーサポートプロジェクト

学校名	活動名
筑波大学附属駒場中・高等学校	「ともにいきる」講演会
岐阜大学教育学部附属小中学校	デイキャンプ お祭りで楽しいお買い物の模擬体験をしよう!! ~お母さんとお子さんが共に笑顔になれる時間を過ごす~

共生プロジェクト

学校名	活動名
香川大学教育学部附属坂出中学校	ふれあい天体観測会
愛知教育大学附属特別支援学校	三附属共生教育 音楽交流会
信州大学教育学部附属特別支援学校	共に暮らし、共に学ぶ (年間通しての交流および共同学習)
筑波大学附属駒場中・高等学校	「ともにいきる」交流会 「手話者と音声言語者が協力して謎を解く! 異言語脱出ゲーム」

第11回

全国大会

従来の東京集合型開催ではなく、動画配信等を利用したリモート型開催の予定。詳細は現在急ピッチで企画立案中。決定次第皆様にはご連絡致します! 乞うご期待!!!

発行所

全国国立大学附属学校連盟
(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門
1-2-29 虎ノ門産業ビル8F
全附連事務局
TEL:03-3591-2091
FAX:03-3591-2092
E-mail:jimukyoku@zenfuren.org
印刷:株式会社インテックス

編集委員	萩原 清明
全附連	担当副会長 萩原 清明 担当副会長 (奈良女子中等) 増田 梓 委員 長 山下 浩史 (神戸特支) 委員 長 (鳥取小) 二村 美里 (静岡浜松小) 佐々木 誠治 (福井義務教育前期)

クラウドファンディングの報告

愛媛大学附属高等学校

令和元年6月、「新しい教育研究の資金調達のためのクラウドファンディング」の全附P連の募集に応募された附属学校園の中から、愛媛大学附属高等学校のクラウドファンディングを支援し、推し進めることとなりました。全附P連がREADYFOR株式会社との仲介役を担い、愛媛大学附属高等学校のプロジェクト「持続可能な未来への挑戦」は、令和元年11月6日から同12月20日までREADYFOR株式会社のサイトに掲載され、寄付目標金額1,500,000円の設定で寄付総額は1,881,000円となり、目標金額の125%を達成しました。多くの方にご協力いただきました。誠にありがとうございます。



全国国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

この保険は全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

2020年度
中途加入受付中

カンガルー保険のご案内

ただ今
募集中!

詳細につきましては、パンフレットをご覧ください。

団体総合生活保険

任意加入制度

24時間補償

約50%割引
全国国立大学附属学校PTA連合会が窓口の団体契約なので、保険料が約50%割安です。
・団体割引: 30%、業種による割引: 25%
・大口団体割引: 10% 適用

24時間補償
お子様を取り巻く様々なリスクに対応した安心のための24時間補償制度です。

簡単・便利!
・保険料のお支払は、便利な「口座振替方式」
・更新のお手続きは、便利な「自動更新」です。

保険期間 2020年4月1日午後4時から2021年4月1日午後4時まで1年間
※随時ご加入いただけます。(お申込日にかかわらず、補償は2021年4月1日午後4時に終了します。)
※ご加入ご希望の方は、取扱代理店までお問い合わせください。

加入対象者 ①全国国立大学附属学校園に在籍の幼児・児童・生徒
②本制度にご加入いただいた上記①の兄弟で、公・私立の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に通われている幼児・児童・生徒(ご加入時に満3歳以上から満18歳以下の方に限ります。)

加入手続き パンフレット差込の加入依頼書にご記入・ご捺印(銀行届出印)のうえ、返信用封筒にてご返送ください。

申込締切日 随時ご加入いただけます。(お手続きの翌月1日(午後4時)からの補償開始となります。)
※パンフレットのご請求、保険料につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。

[引受保険会社] 東京海上日動火災保険株式会社
(担当課)公務第二部文教公務室 〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL:03-3515-4133 FAX:03-3515-4132 2020年4月作成 20-TC00042

全員加入制度 ※個人での加入はできません。

1 園児・児童・生徒、教職員の皆様へのケガなどを補償する
園児・児童・生徒・教職員 総合補償制度
(学校契約団体傷害保険、賠償責任保険PTA特約)

2 園児・児童・生徒、教職員の皆様を犯罪事故からお守りする
犯罪被害事故 見舞補償制度
(傷害総合保険)

3 PTA活動に参加中のご両親・教職員の皆様のケガや賠償事故を補償する
PTA活動総合補償制度
(普通傷害保険PTA団体傷害特約、賠償責任保険PTA管理者特約、生産物特約)

保険期間 2020年6月1日午後4時から2021年6月1日午後4時まで
※「カンガルー保険(全員加入制度)」は全国国立大学附属学校PTA連合会を保険契約者、損害保険ジャパン株式会社を引受保険会社とし、学校契約団体傷害保険、傷害総合保険、PTA団体傷害保険、賠償責任保険(PTA特約、PTA管理者特約、生産物特約)をそれぞれ組み合わせて加入する補償制度のペイトネームです。
※この広告は概要を説明したものであります。詳細はパンフレットをご覧ください。

[引受保険会社] 損害保険ジャパン株式会社
団体・公務開発部 第三課 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:03-3349-9588 FAX:03-6388-0162 SJ20-00089 2020年4月3日

カンガルー保険・取扱代理店のお問合せ先

この広告は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。

《北海道・東北・関東・北信越・四国地区》
株式会社 第一成和事務所
東京都中央区日本橋久松町11-6
日本橋TSビル 8F ☎ 0120-100-492

《東海・近畿・中国・九州地区》
海上商事 株式会社
東京都渋谷区代々木2-11-15
新宿東京海上日動ビルディング ☎ 0120-745-748